

兵庫、鳥取、京都の3府県に広がる「山陰海岸ジオパーク」で、エリア内の高校生が合宿を通じて交流する「ユースフォーラム」が8月25〜27日、鳥取市の鳥取砂丘周辺で開かれた。兵庫の豊岡高校と浜坂高校を含む6校から生徒15人が参加し、同月に国際交流プログラムで韓国のジオパークを訪ねた生徒が活動内容を報告したほか、地域をより良くするアイデアなどを出し合った。

（阿部江利）

ジオパーク 高校生が議論

「山陰海岸」3府県の6校15人鳥取で合宿

同ジオパーク推進協議会が主催した。合宿は10年ぶり、生徒が主体的に学びを深める「探究」につなげ、他地域の取り組みを知る機会を提供する狙い。

フォーラムに先立つ8月5〜8日、3府県から公募で選ばれた6人が、韓国南東部・慶尚北道の「慶北東海岸ユネスコ世界ジオパーク」を訪ねた。兵庫からは豊岡高2年の安田侑司さん（16）、浜坂高2年の神野幸太郎さん（17）が、現地の高校生と交流し、海岸の柱状節理や社寺などを見学した。

フォーラムは、環境省の「鳥取砂丘フィールドハウス」で実施した。初日は、座学で地球の歴史やジオパークの取り組みを学び、砂漠の緑化や宇宙研究に取り

豊岡高、浜坂高も参加 魅力向上へ活動報告



山陰海岸ジオパークの魅力や課題を発表する兵庫など3府県の高校生たち＝鳥取市浜坂

組む鳥取大乾燥地研究センターを見学した。

2日目は砂丘の除草ボラ

ンティアを体験した後、韓国を訪れた生徒の発表を聞き、府県別に班に分かれて

「ふるさとの未来のために何ができるか」を考え、3日目の発表に臨んだ。兵庫の5人は「山陰海岸ジオパークに関して住民が自分の住む地域以外をよく知らない」と問題提起。若い世代がガイドや交流サイト（SNS）で魅力を発信し、交流を続けることで「自分の地域を主体的に知ろう、考えようとする人が増えれば、議論や活動も活発になるはず」とした。

京都府京丹後市の生徒は「観光客が夏と冬に集中しており、それ以外の魅力も伝えたい」、鳥取市の生徒も「砂丘の自然を守りながら観光や教育に活用すべき」とし、それぞれ高校生からも情報を発信したいと訴えた。

安田さんは宇宙科学に関

心があり、地球を知りたいと考えて参加したという。

「韓国にも豊岡の玄武洞や寺と似た風景があり、地質文化のつながりを学べた。英語で交流して気持ちが伝わる喜びを感じられた。他府県の高校生とも仲良くなり、自分の地域の特徴が見えるようになった」と振り返った。

神野さんは複数の府県が参加するジオパークの運営に関心があり「自分にはない強みを持った高校生とたくさん出会えた。地域の課題をわが事として考えるため、いろんな意見を聞き、交流を続けることが大事だと思う」と話した。



韓国の「慶北東海岸ユネスコ世界ジオパーク」を訪れた山陰海岸ジオパークエリアの高校生たち（山陰海岸ジオパーク推進協議会提供）

同協議会は来年度以降も、開催府県を持ち回りで変更してフォーラムを続けたいとしている。